


特定非営利活動法人 日本免疫学会  
 平成 30 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award  
 研究発表報告書

申請者氏名	植木 紘史	会員番号	0034942	
申請者の所属・職名	東京大学 医科学研究所 ウイルス感染分野 特任研究員			
出席会議名	Negative Strand Virus 2018			
発表論文タイトル	IN VIVO IMAGING CAPTURES THE PATHOPHYSIOLOGICAL CHANGES AND DYNAMICS OF IMMUNE CELLS IN INFLUENZA VIRUS-INFECTED MOUSE LUNG			

実施結果:

この度は平成 30 年度前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を賜り、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめといたしまして、選考委員の先生方ならびに推薦して下さった谷口維紹先生に厚く御礼申し上げます。

本賞のご支援を頂いて 2018 年 6 月にイタリアのヴェローナにて開催されました Negative Strand Virus 2018 に参加してまいりました。本学会は 3 年に 1 度、世界遺産のある都市で開催され、インフルエンザウイルスをはじめとしたマイナス鎖 RNA ウイルスに関する最大規模の学会です。世界中の著名な先生方が一堂に会する賑やかな学会ではありますが、セッション会場が一つしか設けられていないのもこの学会の特徴であります。そのため、1 人の発表に総勢 500 名超の聴衆が集中し、6 日間の大会は大変に熱気と緊張感のあるものでした。学会参加者の皆様の発表は、分野や解析手法が多岐にわたって大変興味深く、ウイルス学の最新の研究動向を俯瞰することができ、非常に勉強になる学会でした。

私は、インフルエンザウイルスに感染した肺の生体イメージング解析について口頭発表させていただきました。我々の構築した感染マウスの生体肺イメージングシステムは、これまで観察することのできなかつた感染肺における免疫系の細胞動態の解析を可能としており、インフルエンザのみならず様々な呼吸器疾患の解析への応用性についても報告させていただきました。国際学会での初めての口頭発表ということで大変緊張しましたが、発表後には会場から多くのご質問を頂き、これまで気づかなかつた点や異なる観点からのご指摘は今後の研究の発展に非常に役立つものと思われました。有難いことにその後も学会中には何人もの方にわざわざ声をかけて頂いて、お褒めの言葉や追加のご質問を頂き反響の大きさに驚きました。皆様からのご質問の内容は、ご自身の研究分野へ生体イメージングを持ち込むことを想定して、観察の手術手順や、観察可能な深度はどれくらいであるか、他の臓器を観察は可能かどうか、といったテクニックに関する質問が多くを占めていました。中には実際に生体イメージングプロジェクトを立ち上げようとしている方もいらっしゃり、生体イメージング研究の潜在的な需要はかなり大きいものであると再認識しました。また、本大会のように分野が多岐にわたる大きな学会において、相手に伝わるプレゼンを準備することがいかに重要であるかを痛感致しました。本研究の遂行と発表に熱心なご指導を頂いた河岡義裕先生に深く感謝申し上げます。

この度は、本当に貴重な経験をさせて頂き誠にありがとうございます。今回の受賞を励みとし、学会への参加で得られた経験を糧に、より一層研究に精進し免疫学研究の発展に貢献できるよう努めてまいります。

注) 本参加記は手書きでなく、ワープロを使用して作成してください。